

日本語の文章にある使用の格助詞「が」

「統語論と意味論」

序論

言語はコミュニケーションのための一つの道具である。コミュニケーションとは、2人以上の人々の間でメッセージを送信、明確に配信することである。日本語を含め、世界の言語に様々な特徴がある。例えば、日本語では、助詞という品詞分類がある。

増岡と田久保（1992：49）によると「助詞」というのは、次のように示唆している：

名詞に接続して補足語や主題を作る働きをするもの、語と語、節と節を接続する働きをするもの、等を一括して「助詞」という。

そして、富田（1993：68-70）によると、助詞は5つに分けて、それは格助詞、帝大助詞、取り立て助詞、接続助詞、終助詞である。

本研究では格助詞「が」について分析する。富田（1993：70）によると、格助詞「が」は次のようである。

述語の表す動作-行動や状況の主体（動作-行動を行うもの、その状況になっているもの）を示します。体現にこの「が」がついた文節を「主語」と言います。

三好(1997:13)によると、格助詞「が」の機能は下記に書いてある。

1. 起きている事実をそのまま述べるときに使う。

- a) 自動詞の主語になるとき。
 - b) 主題のある状態の主語につけるとき。（一は一が一）
2. 話し手たちの頭の中に浮かんでいないものにつける「が」。
- a) 話に初めて出すものにつけるとき。
 - b) 疑問視につけるとき
3. 動作を伴わない述語の対象につける「が」。
- a) 能力（可能、上手、下手、理解、etc.）をあらわすとき。
 - b) 心理（願望、関心、etc.）を表すとき。
 - c) 感覚を表すとき。
 - d) 所有を表すとき。

本論

格助詞は、日本語の文章にはいくつかの機能や意味がある。そのいくつかの例を次に示す。次データを見てください。

1(a) ロバートさんは日本語がわかりません。

Robattosan wa nihongo ga wakarimasen.

Tuan Robert tidak mengerti bahasa Jepang

(WIJIF:77)

1(b) ここにリンゴが三十二あります。

Koko ni ringo ga sanjuu ni arimasu.

Di sini ada 32 apel.

(NS:31)

1(c) 寒い毎日がつづいています。

Samui mainichi ga tsudzuiteimasu.

Universitas Kristen Maranatha

Setiap hari dingin terus berlangsung.

(ETYB:123)

格助詞「が」に3つの文はすべて日本語に別の機能がある。文1 (a) 能力(下手)の主語としての機能を表して、ローバートという主題意味がある。文1 (b) 所有を表すときの主語としての機能を有して、リンゴが三十あるという意味する。文1 (c) 自動詞の主語を表す。この文は自然現象で、寒いという日びがずっとつづいている。

結論

この研究から得られた結果は、格助詞「が」は独立することができない。日本語文の格助詞「が」には多くの機能がある。それは次の通りである。

1. 自動詞文の主語マーカーになる。
2. 主語のある状態の主語マーカーになる。
3. 話に初めて出す主語マーカーになる。
4. 疑問詞につけて、主語マーカーを表す。
5. 能力（可能、上手、下手、理解、etc.）を表す。
6. 心理（願望、関心、etc.）の主語を表す。
7. 感覚の主語を表す。
8. 所有の主語を表す。

そのため、格助詞「が」は主語マーカー機能して、その格助詞「が」を含む文の意味も何／だれ／が 主語にあるのがはっきり分かる。



DAFTAR ISI

HALAMAN JUDUL	i
HALAMAN PENGESAHAN	ii
HALAMAN PERNYATAAN ORISINALITAS	iii
PERNYATAAN PUBLIKASI SKRIPSI	iv
KATA PENGANTAR	v
DAFTAR ISI	viii
BAB I PENDAHULUAN	
1.1 Latar Belakang masalah.....	1
1.2 Rumusan Masalah	9
1.3 Tujuan Penelitian.....	10
1.4 Metode dan Teknik Penelitian.....	10
1.5 Organisasi Penulisan	11
BAB II KAJIAN TEORI	
2.1 Sintaksis.....	13
2.2 Semantik.....	18
2.3 <i>Hinshiburui</i>	20
2.4 <i>Joshi</i>	21
2.4.1 <i>Kakujoshi</i>	22
2.4.2 <i>Kakujoshi Ga</i>	22

BAB III PENGGUNAAN *KAKUJOSHI GA* DALAM KALIMAT BAHASA

JEPANG

3.1 Mengungkapkan kenyataan yang terjadi apa adanya	32
3.2 Diletakan pada hal yang tidak terbayang dalam pikiran pembicara.....	36
3.3 Digunakan pada objek dari suatu predikat yang bukan berupa gerakan	38
3.4 Tabel	44
BAB IV SIMPULAN	51
LAMPIRAN DATA	x
SINOPSIS	xvi
DAFTAR PUSTAKA	xx
DAFTAR RIWAYAT HIDUP PENULIS	xxii

